



南の風の光る里 なかたね

NAKATANE TOWN

TANEGASHIMA

人の和と豊かな実りに 新たな希望が持てるまち なかたね



中種子町長
田渕川 寿広

私たちの中種子町は「自立・勤労・共生」を基本理念とし、明るく・豊かで・住みよい郷土づくりをすすめています。郷土づくりの原動力は町民一人一人の郷土を愛する心です。

町民の皆さまには、人の和と豊かな実りに新たな希望もてるまちを、そして訪れる皆さまには、おもてなしの心を形にした町づくりを進め、活気あふれる町づくり、地域に根づく人づくり、心豊かに実りある地域づくりを基本に、新しい地方の時代を中種子町が担う思いで邁進しております。

地方創生のこの時期に、住んでよかった、住みたくなる中種子町を目指してまいります。ぜひ、人情豊かで、自然豊かな中種子町で心も体も癒されてください。

この町勢要覧によって、本町の実態を知っていただき、今後なお一層のご協力を賜りますようお願い致します。

CONTENTS

NAKATANE PHOTOGRAPH 2016

中種子フォトグラフ	3
概要・沿革	8
スポーツ	9
イベント	11
伝統・文化	13
マリンスポーツ	15
観光	17
町営の施設	21
NAKATANE Taste	23

NAKATANE HEALTHY LIFE

中種子の暮らし	
農・林・水・畜産	25
商工業	27
保健・医療・福祉	29
環境・消防・防災	31
学校教育・社会教育	33
中種子町たねがしま留学制度	35
中種子町が結びつなぐ人々の輪	36
行政・議会	37
ふるさと納税	39
資料編	40
町章・町木・町花など	45



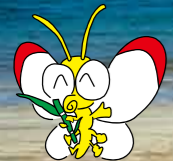
雄龍・雌龍の岩 背景に世界遺産屋久島を望む



毎年、小学校で孵化させたウミガメを放流



熊野からの風景



NAKATANE
PHOTOGRAPH 2016

町の概況

■位置
本町は、鉄砲伝来とロケット基地で有名な種子島の中央部に位置し、鹿児島市まで115km、高速船(ジェットfoil)で1時間35分、カーフェリーで3時間30分、町内に立地する種子島空港から鹿児島空港まで35分の距離にあります。

■地形・地質
東は太平洋、西は東シナ海に面し、東西5~7km、南北22km、面積137.18km²です。地勢

は穏やかな丘陵地で北部に山林地帯が多く、一番高いところで282.3mで中央部から南部にかけては比較的平坦で耕地が多くなっています。地質は古第三紀層及び新第三紀層からなり、砂岩及び粘板岩の互層で西海岸に沿って沖積砂土地帯もあり、土の大部分は九州特有の火山灰土壌が多く、特殊土壌の地質となっています。

■気候
本町の最近5カ年間の平均気温は19.5℃、最高気温の平均は33.1℃、最低気温の平均は

2.3℃となっています。5月から10月にかけて月平均気温が20℃を超え、夏の期間が長く、冬期(10~2月)の平均気温は、12℃で、0℃を下回することはまれです。また、年平均降水量は2642.7mmとなっています。

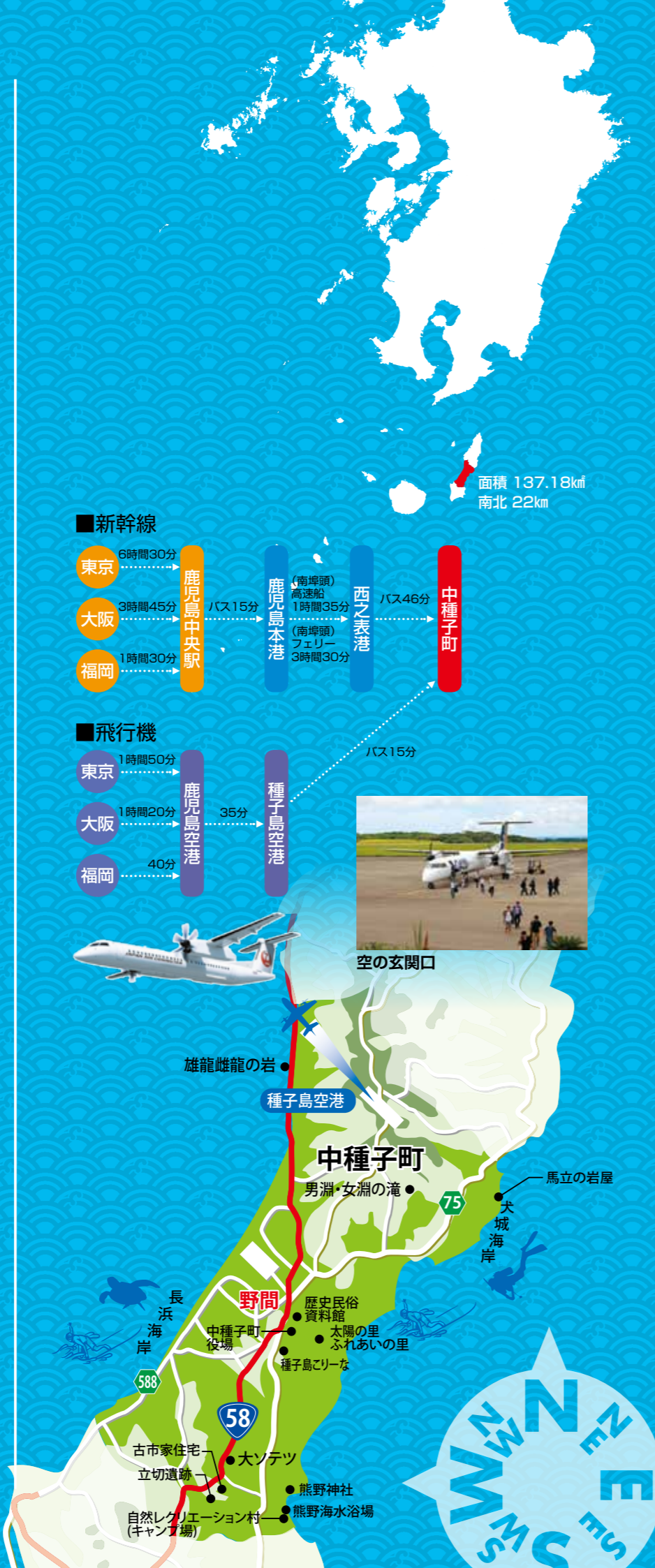
■歴史
本町坂井に所在する県指定史跡「立切遺跡」から、後期旧石器時代初期にあたる3万5千年前の生活を示す遺構・遺物が出土しており、太古から人々の生活の営みがあったことがうかがえます。

古代、種子島は「多織島」又は「多彌島」とよばれ、大和朝廷と接触があったことが日本書紀や古事記に記録されています。中世、近衛家の荘園を経て、種子島は鎌倉幕府の直轄地として上郡、中郡、下郡に3分し郡政が行われていたと伝えられています。

天文12(1543)年鉄砲伝来の翌年、熊野浦に來航した南蛮船の乗員から銃の筒底を塞ぐ技術(ネジ)を得、国産火縄銃が完成。近世日本の成立に影響を与えました。

種子島全体が熊毛郡となり、北種子島村、中種子村、南種子村の3村が誕生しました。中種子村は、郡政時代の中郡にあたり野間、油久、納官、増田、坂井の5カ村で構成されていました。明治になって納官から牧川、油久から田島が分村、さらにその7カ村が統合して中種子村となりました。

昭和15年12月に町制を施行し、平成27年には町制施行75周年を迎えました。



黒潮が運ぶ穏やかな気候、豊かな自然は、幻想的な空間をつくりだし、四季折々にみせる豊かな色彩のノスタルジックな風情は、ゆったりとした癒やしを今もなお与えてくれる。

NAKATANE PHOTOGRAPH 2016



親子ふれあいウォーク



陸上(実業団)合宿



グラウンドゴルフ



柔道(高校)合宿



町内駅伝競走大会



野球(大学)合宿



よいらーいきスポーツクラブ (キッズスポーツ)

遊び、運動・スポーツ活動を通して、体を動かすことの楽しさや協調性、ルールを守るなど様々なことを体感しながら学び、地域の将来を担う子どもたちの「元気なからだ・元気なこころ」を育てることを目的に活動しています。



遊戯広場



中央体育館



流水プール



町立体育館



野球場

太陽の里航空写真



テニスコート



陸上競技場

スポーツに親しむまち

生涯スポーツ活動の促進

体力作りとスポーツの活性化

町民の健康づくりの意識の高揚に努め、日常生活に溶け込んだスポーツの生活化を促進します。

よいらーいきスポーツクラブの推進

誰もが、いつでもどこでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現のため「よいらーいきスポーツクラブ」を推進します。

スポーツ交流の促進

スポーツ合宿等誘致推進協議会を中心に、高校・大学・実業団などスポーツ合宿等の誘致に努め、スポーツを通じた地域間交流を促進します。



町民体育祭



語り継ぐ笑顔

中種子町の一年は、四季折々の美しい自然と豊かな伝統文化で彩られます。年の始まりは町祈祷、福祭文などで一年の無病息災、豊作などを祈願します。春の田植え期、青々とした稲穂が黄金色になると、いよいよ夏到来です。

よいらーいき祭りなどのイベントにおいては、「鉄砲伝来の地・種子島」ならではの火縄銃試射による号砲で開始しています。

夏が終わると、町民体育祭や農林漁業祭などさまざまなイベントが開催されます。中でも願成就祭では、太鼓や唄に合わせた勇壮な踊りから奥ゆかしい踊りまで、これまで地域で守り伝えてきた郷土芸能が披露されます。

EVENTS

- 1月 成人式
消防出初め式
中種子町武道大会
- 2月 親子ふれあいスポーツ大会
- 5月 ちびっこふえあ
種子島縦断親子ふれあいウォーク
- 7月 海水浴場 海開き
県体熊毛地区大会
各地区六月灯
- 8月 よいらーいき祭り
各地区精霊送り
ウミガメ放流体験
- 9月 小学校・校区合同運動会
中学校体育祭
- 10月 各地区秋季大祭・願成就祭
ふるさと交流親善ゴルフ大会
町民体育祭(第2日曜日)
中種子町相撲大会
- 11月 中種子町農林漁業祭
「生涯学習フェア」町民文化祭
町駅伝大会
種子島相撲大会

イベント・祭りを楽しむ



夏
中種子市街地の旭町通りを中心に、夏の風物詩「よいらーいき祭り」が開催されます。各団体の躍り連やみこし、島内外からよさこいチームなども参加し、パレードを盛り上げます。



よさこいチーム



相撲大会

秋
芸術の祭典、町民文化祭が、種子島こりーなで開催されます。絵画や書道などの展示に、郷土芸能や舞踊などの舞台発表が行われます。

実りの祭典、農林漁業祭が種子島中央体育館で開催されます。農林漁業功労者の表彰や肉、魚介類、苗木、鉢物などの販売が行われます。



納官和太鼓



海水浴場 海開き



成人式



農林漁業祭



文化祭



ちびっこふえあ



坂井歴史公園



大ソテツ

次世代につなぐ歴史と文化

■古市家住宅
 1846年建築の種子島を代表する江戸時代末期の民家住宅。平成6年7月12日、国の重要文化財に指定されました。
 老朽化が激しく平成13年1月から2年かけて、修復・復元作業が行われ、当時の姿によみがえりました。

- ①
- ②

- ① 矢止石
- ② 日良法印遺徳顕彰碑
- ③ 坂井神社



指定文化財

立切遺跡では、3万5千年以上前(旧石器時代)の生活跡や日本最古といわれる狩猟用落とし穴を発見。



遺跡発掘作業

国指定	
天然記念物	種子島阿嶽川のマングローブ林
建造物	古市家住宅
県指定	
無形民俗文化財	町山崎の源太郎踊り
史跡	立切遺跡
町指定	
史跡	千草原遺跡
史跡	阿嶽の洞穴
史跡	苦浜貝塚
史跡	日良法印御墓所
史跡	日良法印墓地跡
建造物	塩釜跡
建造物	野間焼窯跡
建造物	戸畑の煙突
建造物	松濤庵跡
建造物	南界小釣鐘堂跡及び旧正門
歴史資料	矢止石
歴史資料	宮吉良の石塔
歴史資料	上妻氏の石塔
工芸品	塩釜神社の石臼
工芸品	牛之原牧の証文
工芸品	中之町牧の証文
工芸品	日蓮筆曼陀羅
工芸品	日隆筆曼陀羅
工芸品	牧のコテ
天然記念物	坂井神社の大ソテツ
天然記念物	ヤッコソウ自生地
天然記念物	ヤクタネゴヨウ
天然記念物	平鍋の化石
無形民俗文化財	下田集落「アッチャメ踊り」
無形民俗文化財	大踊り「北之町」・「月日かけ」

- ①
- ②

- ① 戸畑の煙突
- ② ヤクタネゴヨウ



郷土芸能

引き継いできたことを未来へ



なぎなた踊り

源太郎踊り



向井町ヤートセー

熊野ひょうたん踊り



星原ヤートセー

大踊り「北之町」・「月日かけ」



二十番棒踊り

中之町周袈裟女



アッチャメ

弁慶踊り



棒踊り



青い海と白砂の眩しい海岸線に、絶好のサーフィンスポットが点在するとともに、全国的に注目を集める種子島は、シーカヤックで巡るマンダロープ群生地や海蝕洞の他に、ダイビングやクルージングなど大自然を相手のレジャーがいっぱい



青く透き通る海や自然が創り出した洞窟・マンダロープの異世界を自分の力で体験することができ、それがシーカヤックの魅力。



熊野海水浴場
熊野海岸に隣接する自然レクリエーション村。熊野海場です。近くにはメヒルギやハマジンチョウの自生地があり、南国ならではの自然を感じることが出来ます。沖合に浮かぶ小島、エメラルドグリーンと白いビーチでの海水浴の後は、近くの町営温泉保養センターで大パノラマを見ながらゆったり気分になります。



種子島の南北に細長い海岸線には、サーフポイントが多数点在し、年間を通してコンスタントにサーフィンを楽しむことができます。



シュノーケリング

スキューバダイビング
東海岸の珊瑚礁と鮮やかな魚の美しさは目を見張ります。タテジマキンチャクダイやサザナミヤッコなどが泳ぐ海は、透明度が高く「種子島ブルー」と称されるほどです。



雄龍・雌龍の岩

向かって左側が雌龍岩、右側が雄龍岩。嵐の夜崖崩れにあい、家もろとも海に投げ出された仲の良い働き者の夫婦の生まれ変わりの岩だと言われ、今も土地の人々に深くうやまわれている神秘と信仰の岩です。



戸畑の煙突 (戦争遺跡)
旧海軍航空隊種子島基地炊炊所跡

雄龍・雌龍の岩



長浜海岸
全長約12kmにわたって延々と続くこの海岸は、種子島を代表する白砂の海岸の一つです。毎年5月上旬～8月上旬にかけて、ウミガメが産卵にやってくることも知られています。また、サーフポイントとしても有名で、全国からサーファーが訪れます。

多くの見所はその歴史的そして芸術的中種子遺産です。古く尊い文化を持つ人々と一度触れ合ってみませんか。中種子町でバカンスを過ごされることを心からお勧めし、ツーリズムが文化交流のいきつけになればと思います。

おじやりもうせ、絶景の中種子町へ。



日本一の大ソテツ
推定樹齢は700年以上。高さ約10m、樹長12m、根回りは2mほどあり、日本一の大きさとされています。幹から何本もの枝が分かれて湾曲した姿は迫力満点。枝の重さで木が折れないように、鉄の柱が添えられています。



男淵・女淵の滝
2連の滝の上流が幅4m、高さ4mの男淵。その3mくらい下流に幅5m、高さ5mの女淵があります。淵には柳の木がなびいて、その枝に髪の毛が3尺もある美人が乗って髪をすいていたと言われていました。渇水期でも滝水の流れる神秘的な2つの滝です。



古市家住宅
島主の種子島氏が仕え、庄屋などを務めた古市源助が弘化3(1846)年に建てたもので、建造当時の原形をほぼとどめていることから、国の重要文化財に指定されています。また、歴史の里坂井公園を中心に、歴史散策コースとなっています。



馬立の岩屋
種子島家10代島主頼時がこの洞窟で修験道術(天狗飛切りの術)の修行をしていたといわれ、1462年8月17日この日も修行のため洞窟に入っていました。二度と帰ってこず、愛馬が穴の前で主人の帰りを待っていたことから、この名前がついたと言われています。

増田宇宙通信所 (ロケット追跡管制所)
この通信所では、人工衛星からの電波を受信し、人工衛星が正しい軌道、位置および姿勢を保っているかどうかを監視したり、搭載している電子機器が正しく機能しているかどうかを知るためのデータを、筑波宇宙センターに送っています。





松濤庵跡



熊野海水浴場から見た朝日



阿嶽の洞穴



自然レクリエーション村



熊野海水浴場



中種子町温泉保養センター



水稲早期栽培発祥の地

場所は、ロケットが打ち上げられる種子島宇宙センターに向かう県道沿いにあり、展望所からその生態を観察することができます。マングローブは、熱帯から亜熱帯にかけて、真水と海水が入り交じる汽水域に自生している植物の総称。自然に分布している広大なマングローブ林としては、種子島がアジアでの北限とされています。

「種子島阿嶽(あだけ)川のマングローブ林」は、平成27年10月に国の天然記念物に指定されました。県内では48件目の国指定となります。指定区域は、本町南部の坂井池之角地区・阿嶽川河口域に広がる1.8ヘクタールで、比較的低温地帯でも生育する樹種メヒルギのみで構成されています。

ADAKE River

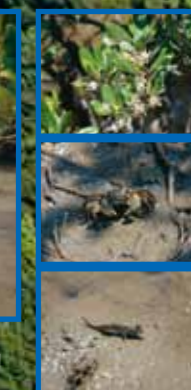
アジアの北限「阿嶽川のマングローブ林」 —歴史と自然がもてなす熊野ベイエリア—

展望所

Nationally designated natural monument



メヒルギと汽水域の動植物



たくましく豊かな心を育てる。

■ 体育施設



種子島中央武道館

種子島中央体育館に隣接し、年間を通じて柔道、剣道、空手道などに活用されています。1階は剣道場とロビー、「サンヴィレッジ（合宿所）」があります。2階が柔道場（2面）と観客席（200席）になっています。



野球場

両翼92メートル・センター距離120メートルの広さの野球場で、外野には天然芝が敷かれています。1塁側・3塁側両ベンチ付近にブルペンが備えています。外周には投球練習場があるほか、ランニングコースとしても利用できます。スタンド後部は芝生で、グラウンドゴルフコースになっています。



町立体育館

1階は人工芝の床で、全方向に防球ネットがはりめぐらされ、ゲートボールコート2面分の広さがあります。2階はフローリングが敷かれ、卓球や体操などに利用できるほか、ロール芝をしくことで野球の投球場として利用できます。



弓道場

野間伏之前集落に弓道場があります。町武道大会や地区武道大会の会場として使用されています。



種子島中央体育館

バレーボールやバドミントン、バスケットなどのインドアスポーツに適した体育館です。1階アリーナはバレーボールコート3面分の広さがあります。2階には632席の観客席に加え、1周200メートルの走路があります。走路は、雨天時のトレーニングや、夜間のウォーキング場などに利用されています。



陸上競技場

全天候型のトラックを備えた、日本陸連第3種公認の陸上競技場です。町内の陸上競技大会や町民体育祭をはじめ、合宿に訪れた実業団陸上部や高校陸上部、サッカー強豪校などの練習場として活用されています。夜間には競技場外周の外灯が点灯し、町民のウォーキング場としても愛用されています。



テニスコート

全天候型（6面）のテニスコートです。ナイター照明施設を備え、夜間の使用も可能です（午後10時まで）。休憩所2棟の間に放送施設を備えています。



相撲場

平成25年度、太陽の里（種子島中央体育館近く）に新しい町相撲場が完成しました。町相撲大会や種子島相撲大会の会場としても使用されています。

■ 宿泊施設



サンヴィレッジ（合宿所）

種子島中央武道館内にある合宿施設です。宿泊室は、12畳が2部屋、15畳が1部屋あり（定員100名）、厨房、風呂を完備しています。社会教育活動及びスポーツ合宿に限ります。

■ 文化施設



文化会館・種子島こりーな

本格的な音楽ホールを備えた文化施設。名称は、種子島はなだらかな広陵地帯であり鉄砲伝来の地でもあることから、ポルトガル語で「丘」を意味する「colina」にちなんだものです。ホールの座席数：678席

■ レジャー・観光・体験施設



ふれあいの里（ロッジ）

里山の風景に包まれた木造瓦葺きのロッジ型宿泊施設です。8畳2間が1棟、6畳2間が2棟の計3棟あり、冷暖房のほか炊飯器や食器類などの自炊施設、風呂、洗濯乾燥機なども完備しています。いずれの棟も畳の部屋のほかに囲炉裏がある広いフローリングの間があります。ゆったりと使っていただけますので、家族連れや団体での利用に最適です。



中種子町立歴史民俗資料館

大正から昭和にかけての民家を、実際に使われていた農具や民具等で再現しています。また、サトウキビの圧搾機や、「最後の丸木舟」と言われる実物も展示され、昔の種子島の暮らしがしのべられます。そのほか、約35,000年前の立切遺跡など、豊富な埋蔵文化財の遺物も展示されています。



流水プール

全長約116メートルと約80メートルの銀河アドベンチャー滑り台（ウォーター滑り台）を備えた、県内最大規模の流水レジャープールです。



黒糖伝承館

サトウキビ（甘藷）から黒糖を作る昔ながらの工程を体験できる施設です。営業は、サトウキビの収穫時期の12月から3月頃限定です。予約が必要となりますので詳しくはお問い合わせください。



温泉保養センター

自然レクリエーション村や熊野海水浴場の近くにある温泉施設です。弱アルカリ性の単純温泉です。サウナも併設されています。



自然レクリエーション村（海水浴場・キャンプ場）

沖合に浮かぶ小島、白い砂浜、海と空の青色鮮やかな、町内唯一の海水浴場です。テントなどの貸し出しを行っており、キャンプを楽しめます。となりには、温泉保養センターもあります。

果

kudamono



マンゴー

南国・種子島の自然な太陽光だけで完熟させたマンゴーです。熟して自然に落果したものをネットで受け止めて収穫しています。

タンカン

タンカンは大陸より伝わったみかんで、ぼんかんとオレンジの交配種だと言われています。その特徴は何と言ってもジューシーな果汁と強い甘みです。

菜

yasai

ニガダケ

種子島で竹の子と言えばニガダケ。孟宗竹に比べ細く長いのが特徴。その名に反してまったく苦みがなく、調理の際にアク抜きもいりません。

スナップエンドウ

スナップエンドウは、栄養価が高く、たんぱく質やビタミンを多く含んでおり、がん予防の成分もあるといわれています。実とサヤ両方を食べられるのが特徴です。

酎

shochu

焼酎

種子島産の良質なサツマイモなどを原料に使用した、軽い口当たりが特徴の焼酎。芳醇な香りと深い味わいが満喫できます。



安納いも

黄金色の果肉が食欲をそそる安納いもは、種子島に古くから伝わるさつまいもです。

貝

kai



ナガラメ【トコブシ】

形はアワビに似ていますが、大きさはアワビより少し小さめです。

伊勢エビ

黒潮の流れで鍛えられ、複雑な岩礁の磯根で豊富なエサを食べた伊勢エビは、身がプリプリとして旨みが濃いです。

蝦

ebi



菓

kashi



郷土菓子

つまき・かからまんじゅう・いもん餅など、中種子町で採れる食材を使った郷土菓子。



アサヒガニ

種子島の高級食材アサヒガニ！胴体に身がぎゅっと詰まっってミンが濃厚です。ゆでて食べるのが一般的です。

魚

sakana

キビナゴ

東シナ海と太平洋の波にもまれて、たくましく育ったキビナゴ。種子島のキビナゴは味も大きさも自然児です。



蟹

kani



ノコギリガザミ

亜熱帯のマングローブの根元や河口の汽水域の泥地に生息するワタリガニの仲間。重要な食用種でもあります。

水イカ

アオリイカと言う名前でも有名なイカの王様。種子島近海のもの、赤みがかって大きいのが特徴で、島のブランド品となっています。



トビウオ

種子島や屋久島で「トッピー」とよばれるトビウオ。胸ビレを使って空中を滑空することで有名な魚ですが、実はとってもおいしい魚です。



特産品販売所

定番からオリジナルまで、お土産の選択肢がたくさん！



ひめ工房



龍星館

中種子を
食べ尽くす
NAKATANIE Taste

四季折々にさまざまな表情をみせる中種子の山海の幸をお楽しみください。

種子島は、ここならで
は！といわれる食材の宝
庫。焼くと蜜があふれ、
スプーンで食べられるほ
どクリーミーなサツマイ
モの王様 安納いも。その
安納いもを食べて育つ黒
豚、刺身やみそ焼きが絶
品のアワビに似たナガラ
メ(トコブシ)。そのほか
トッピー(トビウオ)やゾ
ウリエビ、完熟マンゴー、
パッションフルーツなど。
どの季節にもおいしい味
覚がいっぱい。

産業活力を育むまちづくり

自然と作り手が対話して生まれた
あたたかな産物たちは、
これからも私たちの自慢です。



さとうきび収穫（ハーベスタ）



- ① 肉用牛共進会
- ② ナガラメの選別
- ③ 杉の間伐



農業で伸びゆく まちづくり

農業を基幹産業とする本町は、暖地特性と恵まれた耕地条件を活かし、さとうきび・でん粉原料用さつまいもを中心に、青果用さつまいも・水稲・葉たばこなどの基幹作物の生産振興とレザリーフファンなどの花き類、マンゴーなどの果樹類の生産拡大及び品質向上に努めています。

今後、農業を取り巻く環境は国際市場の変動に影響を受けやすく、さらに、就農者の高齢化、農家人口の減少も懸念されるなか、地域の特性を活かした環境に優しい農業の確立と経営基盤の強化を図り、農業で伸びゆくまちづくりをめざします。



茶共進会



車エビ養殖場

豊かな水産資源を活かした水産業の振興

東海岸では、熊野漁港を拠点に一本釣りや定置網と刺網漁業、西海岸では、浜津脇港と屋久津港を拠点に日帰り操業による磯建網漁業と刺網漁業が営まれています。

そこで、漁業経営の安定と担い手の育成や漁業基盤施設の整備の促進、つくり育て管理する漁業と内水面漁業を推進し、豊かな水産資源を活かした水産業の振興をめざします。

種子島の特性を活かした畜産の振興

本町の畜産業の振興は、地域の特性を活かし、自給飼料に基づいた畜産経営の確立と各種副産物の有効利用による低コスト生産に努めています。

肉用牛は、優良雌牛導入・保留を行うとともに、子牛の損耗防止対策等による市場上場頭数の維持に努めながら、農家の経営安定を図ります。

乳用牛は、生産効率の高い専門型酪農経営を推進し、飼養管理技術、粗飼料自給率向上を図りながら、良質な生乳生産に努めています。

養豚は、安全で高品質の肉を供給するため銘柄確立をめざしています。

さらに、畜産業全般で家畜防疫対策に努めながら、環境に配慮した畜産経営を推進します。



- ④ 稲刈り
- ⑤ 安納いも品評会
- ⑥ レザリーフファン

快適な生活環境を守る 豊かな林業の振興

森林は、木材生産だけでなく、「山地災害防止」・「水源かん養」・「森林の循環利用」の国土保全等公益性の機能を有し、町民の生活と切り離せない重要な役割を果たしています。

そこで、快適な生活を守る豊かな森林づくりと木材産業を担う意欲ある人づくりを推進し、人が自然とふれあう身近な空間を生みだす林業の振興をめざします。



施設紹介



中種子町農村婦人の家

中種子町における、農林水産業や商工業等の振興を図るとともに、地場産品の研究開発、農林水産加工技術の習得並びに連帯意識の高揚を図り、町民所得の向上と地域の活性化に寄与するため設置しました。

農産加工室、共同学習室、共同洗たく室が設置され、農産加工室では味噌や郷土菓子、たんかんジュース、ドレッシングなどを加工しています。

地域の特性を活かしたまちづくり



中種子町の市街地を臨む



種子島の全てのさとうきびを加工する製糖工場



旭町商店街



安納いもの出荷準備



スーパーマーケットでの快適ショッピング



スタンプ会加盟店で利用できる商品券



商店街にぎわい祭り



焼酎製造工場内



グリーン・ツーリズム(体験型観光)



ポイントカード

個性溢れる商品とアイデアで新しい時代に対応できる、商業振興を目指すまち。

活力ある商工業と地域資源の活用による観光振興

魅力とにぎわいのある商店街づくりや、6次産業化を推進した本町らしさを創造する既存企業の育成と強化を図ることで、活力ある商工業の振興をめざしています。

観光では、訪れる方々をおもてなしする環境整備、自然や歴史・文化・スポーツなど本町の特性を生かした観光プログラムづくりを推進しています。

また、「なかたねの食と農」を満喫してもらう体験型農業・漁業の開発に努めています。

施設紹介



中種子町温泉保養センター

本町南部、熊野海水浴場の前に建つ公共の入浴施設。浴室・洗い場ともに広く充実しており、内湯のみで細長い(2×7m)浴槽に、気泡浴・低周波浴が同居しています。泉質は単純温泉で無色透明、若干ツルツルした肌触りを感じます。また、サウナや薬草風呂も楽しめます。

休憩室からの眺めは広々とした庭の向こうに白い砂浜と青い海が展開し、吹き寄せる海風が心と体を癒やしてくれるでしょう。

健康をサポートするまちづくり

町民一人ひとりの健康が
何よりのまちの宝。



いきいき健康教室（健康体操）



健康診断



- ④
- ⑤

④福寿大学
⑤新米給食交流会



- ①
- ②
- ③

①おやこ食育教室
②乳幼児健診
③老人クラブゲートボール大会

町民相互の助け合いの精神が生きる本町の特性を活かして、人と人、団体と団体などのネットワークを構築し、全ての人が安心して、いきいきと、自立した生活を送ることができるよう、ともに助け合い、支え合う地域づくりをめざします。

そのために、地域で生活する住民の生活課題やニーズが保健・医療・福祉サービスに反映され、全ての町民がそれらのサービスを総合的・効果的に利用できるような仕組みづくりをめざします。

また、地域の人材や情報活動といったソフト面の資源や、各種施設などハード面の資源など地域福祉に関わる地域資源の有効活用、育成、整備を図り、誰もが安心して生活できるまちづくりをめざします。

共に生きる生きがいに
満ちた保健・医療・福祉のまちづくり

施設紹介



公立種子島病院

本町と南種子町の2町で平成13年度に病院組合を設立・運営しており、平成16年度に現在地(南種子町)に新築移転。診療科目内科など7科目。病床数62床、常勤医師3名を含むスタッフ約90名で、種子島南部地域医療の中核病院となっています。



種子島産婦人科医院

島内唯一の産婦人科医院で、平成20年西之表市内の民間医院を引き継ぎ、種子島1市2町による組合で運営。平成28年、現在地(西之表市)に新築移転(15床)し、種子島の周産期・産婦人科医療を一手に担っています。



中種子町保健センター

保健師、管理栄養士、歯科衛生士等が配置され、地域住民に対する健康相談、保健指導、予防接種や各種検診のほか地域保健に関して必要な事業を行っています。

安心して快適に暮らせるまちづくり

自然と風土と共生する
安心して豊かなまちづくり



出初め式



公営住宅 伏之前団地



熊毛地区消防組合中種子分遣所



ゴミの分別（資源ゴミ）



し尿処理施設(中南衛生管理組合)



風力発電



津波(災害)を想定した避難訓練



防災行政無線



交通安全教室

安心して住める生活環境づくり
地域の実情を踏まえた都市計画との整合性を保ちながら、目標とする住環境の水準を定め、豊かな文化と環境とともに暮らせるみんなに優しいまちづくりをめざします。
また、安全に対する取り組みとしては、交通安全意識の高揚を図るとともに、危険箇所への交通安全施設を整備します。
さらに、町民に対する防火意識や自然災害、防災に関する意識啓発を図りながら、地域の自主防災管理体制の強化及び消防・防災施設の整備拡充を図ります。

施設紹介



種子島清掃センター

本町及び西之表市のそれぞれのゴミ処理施設の老朽化に伴い、両市町で組織する「種子島広域事務組合」で建設した一般廃棄物処理施設(平成24年3月完成)です。

リサイクル施設:7t/5h ゴミ焼却施設:22t/日 最終処分場:8,000立方m×3区画
浸出水処理施設:8立方m×日

明日をひらく教育・文化のまちづくり

まちづくりは、人づくり
生涯を通して、
学びあい、高めあう。



町内小中学校親子ふれあいスポーツ大会



学校音楽祭



文化団体の披露

潤いある社会教育とふれあいと笑顔がはじける生涯スポーツと誇りを感じる芸術文化の推進を図る

「まちづくりは人づくり」を基本理念とし、生涯学習の機運を高め、幼児から高齢者まで学習機会の拡充に努めています。

また、町民の健康づくりの意識の高揚や日常生活に溶け込んだスポーツの生活化を促進し、各地域や年代に即した生涯スポーツの普及にも努めています。

芸術文化では、地域の特色を活かした親交を図るため、文化団体等の活動や集落の郷土芸能の保存伝承など自主的な文化活動の支援や、指定文化財の保護・保存と活用並びに新たな文化財の指定を推進しています。



- ① ウミガメ放流
- ② チャレンジキッズ(漁業体験)
- ③ 交流学习

「二十一世紀をたくましく生きる中種子の子の健全育成」を柱に、「生きる力」を備えた人間の育成を図る学校の育成を図る

本町のもつ良き教育風土の中で、「二十一世紀に生きる中種子の子の健全育成」を柱に、豊かな心を持ち、たくましく生きる能力や自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力、いわゆる「生きる力」を備えた人間の育成を図る学校教育の創造に努めています。

そのために、学校・家庭・地域が相互に連携を図りながら、基礎・基本の確実な定着や郷土の良さを活かした心の教育の充実に努めるとともに、一人一人の個性を活かす教育の充実に努めています。

また、教育課程の円滑な実施と地域に開かれた地域と共にある学校づくりを推進しています。

町内の小学校・中学校生徒数(人) 平成28年4月1日現在

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
星原小学校	1	2	2	2	1	1	9
納官小学校	2	2	0	1	3	2	10
増田小学校	12	6	12	3	12	8	53
野間小学校	47	42	43	36	55	41	264
油久小学校	5	4	3	5	3	9	29
南界小学校	6	3	6	5	9	3	32
岩岡小学校	5	3	2	5	5	5	25
計	78	62	68	57	88	69	422

中学校	1年	2年	3年	合計
中種子中学校	67	76	81	224

町内のその他の学校
鹿児島県立種子島中央高等学校
鹿児島県立中種子養護学校



ラジオ体操コンクール金賞受賞



学童保育

中種子町たねがしま留学制度

親元を離れて、日本で一番宇宙に近い島「種子島」で生活し、中種子町内の小学校へ通います。

中種子町では、地域活性化の一環として平成11年度に「つまへに留学制度」(実施校:油久小学校)を発足させ、平成14年度あらたに実施校として岩岡小学校が加わり「たねがしま留学制度」と名称を変更しました(現在は、岩岡小学校でのみ実施)。

留学児童は小学校区の家庭で1年間生活をし、種子島の恵まれた自然環境や施設等を利用して、都会では味わえない自然体験や地元住民とのふれあい活動を通じて、「生きる力」を育成する体験学習制度です。

教育



たねがしま留学で...
●黒潮の恵みあふれる種子島の大自然の中で、たくさんの方の自然体験ができます。●人情豊かな社会環境の中で、親や友人を思いやる優しい心が育ちます。●豊かな思い出をたくさんつくります。「第二のふるさと」が出来ます。●親元を離れて暮らすことにより、「今まで知らなかった」「たくましい」「我が子」「自分にチャレンジできる子ども」に成長します。●親元を離れて暮らすことにより、改めて「親のありがたさ」を学びます。

小規模(小人数)小学校への留学は...

小規模(小人数)小学校への留学です。学習・スポーツ・各種学校行事・各種地域行事では常に期待される子どもにならざるを得ず、受け入れる小学校や地元地域において、その留学生は「とても重要な一人」になります。そして、たくさん「自己表現の場」を体験することにより、留学生本人も次第に「自分の存在を主張できる子ども」に成長します。留学する小学校は全校児童20数名の小規模校ですが、小学一年生から六年生までが、わけ隔てなく一つの家族や兄弟のように、仲睦まじく学習しています。

留学児童は...
親元を離れて、宇宙に一番近い島・鉄砲伝来の島「種子島」で生活し、地元の小学校に通います。里親として協力してくださる家庭でお預かりしお世話します。留学する期間は原則として一年間ですが、継続延長することもできます。(ただし、新規希望者を含めた審査結果により異なります)。
留学生の対象は、小学校一年生から六年生までです。保護者(実親)の経費負担を軽減するため、中種子町から助成があります。



お問い合わせ先 たねがしま留学里親制度連絡協議会(中種子町教育委員会内) Tel:0997-27-1111(内線257) Fax:0997-27-3056

交流

中種子町が結びつなぐ人々の輪



大阪府堺市

火縄銃の製法が堺市に伝えられたということで、交流を深めていましたが、昭和61年10月大阪府堺市と種子島(一市二町)が友好都市提携を結びました。

中種子町青少年さつま交流事業

本町と鹿児島県さつま町とは、太平洋戦争時の学童疎開が縁で平成18年に友好交流協定を締結しています。それに基づく青少年活動の一環として、毎年、さつま町訪問と本町受け入れを交互に行い、各町の小中学生が交流をしています。各町の対照的な自然にふれ、異年齢による共同生活を体験するなかで、団体行動のあり方やリーダーとしての自覚などを習得するとともに、学童疎開から現在までの両町における交流について学んでいます。

中種子ふるさと交流親善ゴルフ大会

本町出身者や本町に縁のある方と地元の方々が、ゴルフや交流会を通して、親睦を深めるとともに、様々な情報交換を行うことで、本町の発展に繋がることを目的とした交流大会です。

中種子町は、産業、教育、文化などの幅広い分野で交流をはかり、本町との友好親善を深めるため、現在2つの都市と姉妹盟約を結んでいます。



鹿児島県薩摩郡さつま町

戦時中の学童疎開を縁に、平成18年7月4日「友好交流に関する協定書」を締結しました。



町民の声が生かされるまちづくり

明るく豊かで
住みよい郷土を
町民と共に歩む町づくりを



毎月1回発行される広報紙

町民と一体となり信頼される行政サービスと町民の声を反映した議会運営の実現のために

【行政】

「明るく、豊かで、住みよい郷土を」目指し、行財政改革及び職員の資質向上に努め、より一層の町民サービスの向上や多様な住民ニーズへの細やかな対応に努めています。広報・広聴活動や情報公開を推進し、町民への説明責任を果たし、開かれた町政の実現に向け、町民と共に歩む町づくりに努めています。

【議会】

町議会は、町民の代表14人の議員で構成され、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の2つの常任委員会が設置されています。

年4回の定例会と必要に応じて臨時会が開かれ、町の施策や条例、予算、請願、陳情などを審査し、町民の意見を反映した議会運営に努めます。



中種子町役場



中種子町議会議員 ※平成27年5月1日現在

議席番号	氏名	役職	所属常任委員会
1	永瀆一則	委員	総務文教委員会
2	山元みさ子	委員	総務文教委員会
3	蓮子信二	委員	産業厚生委員会
5	下田敬三	委員長	総務文教委員会
6	瀆脇重樹	委員長	産業厚生委員会
7	迫田秀三	副委員長	総務文教委員会
8	日高和典	副委員長	産業厚生委員会
9	園中孝夫	委員	産業厚生委員会
10	徳永紹道	委員	産業厚生委員会
11	戸田和代	委員	産業厚生委員会
12	池山朝生	委員	総務文教委員会
13	松下正治	委員	総務文教委員会
14	徳永留夫	副議長	産業厚生委員会
15	鎌田勇二郎	議長	総務文教委員会

中種子町をより住みやすい町にしていくために、町民の皆さんに代わり、町執行部が行う施策や重要な方針などについて、議会本会議や委員会活動を通じて審議し決定することで、住民意志を町政へ反映させています。



議会風景

ふるさと中種子町を
応援してください

平成27年9月1日より
ふるさとチョイス&
Yahoo!公金支払いにより
クレジット決済導入!

輝かしい歴史と豊かな自然に恵まれた私たちのふるさと種子島は、
古くは鉄砲伝来、現在は科学技術の最先端をゆく日本唯一の実用衛星打上げ基地の島として全国に知られています。

「ふるさとに貢献したい!」、
「中種子町出身ではないけれど応援したい!」

という思いを、

寄附を通じて実現してみませんか?皆さまからのご寄附をお待ちしています。

1万円以上の寄附をしていただいた町外に居住する方に、

お礼として特産品などをお届けします。

中種子町勢要覧 資料編

D o i o B o o k



詳しくは中種子町公式ホームページをご覧ください。

<http://town.nakatane.kagoshima.jp/>

中種子 ふるさと納税 検索

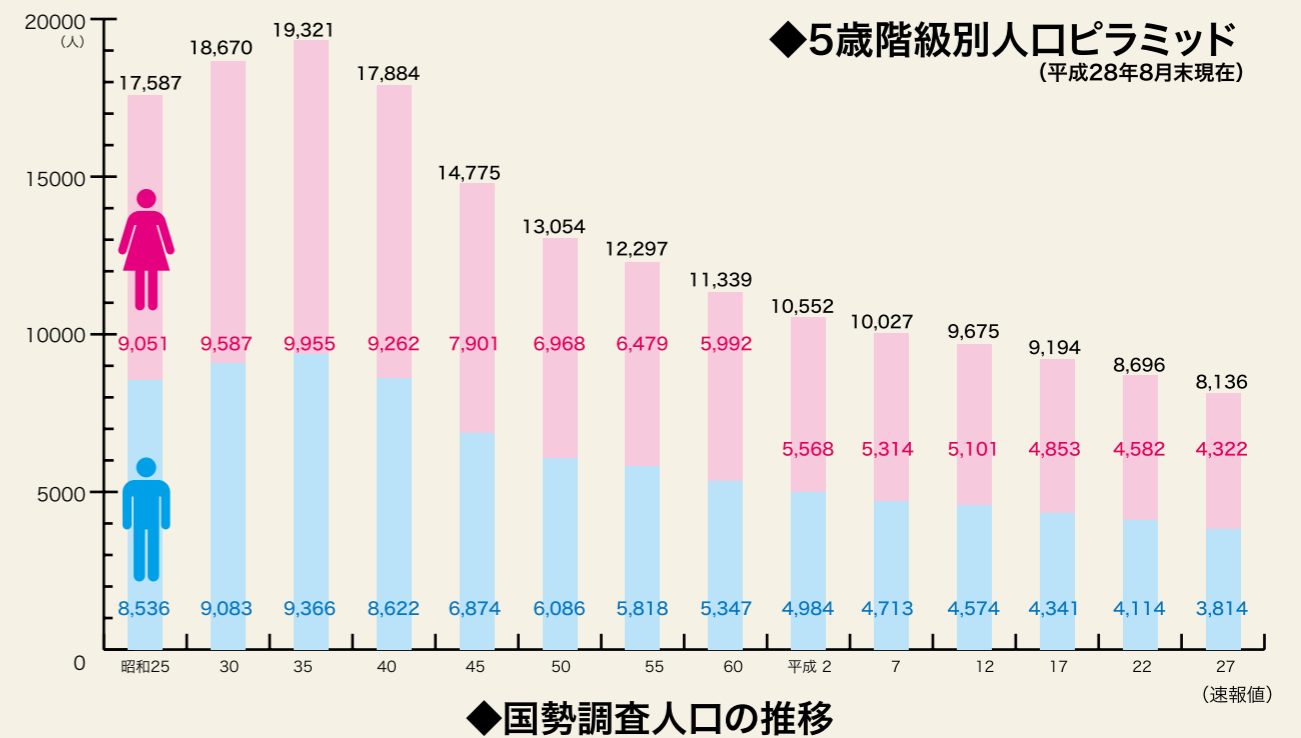
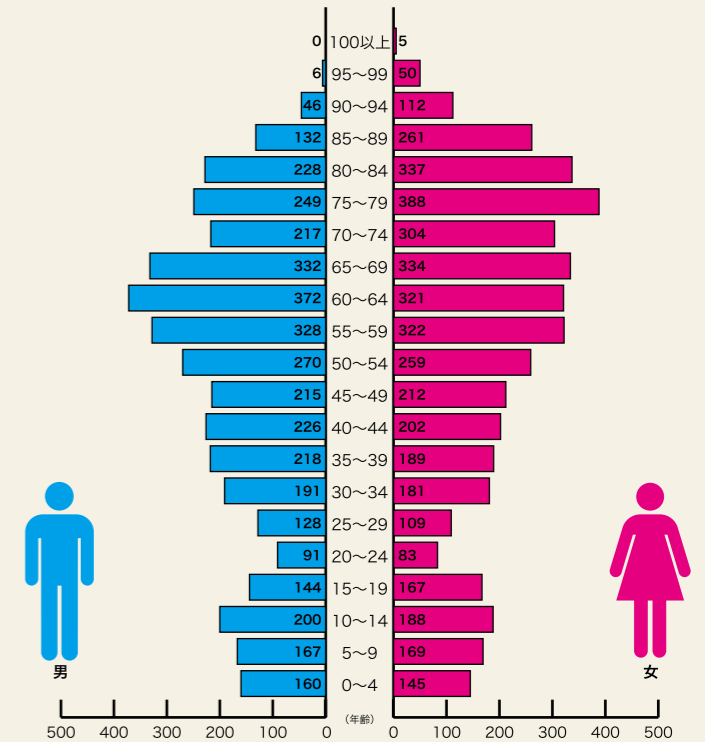
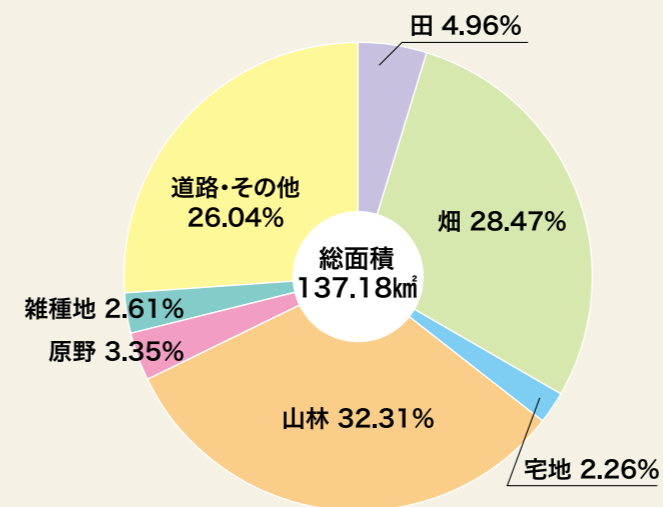
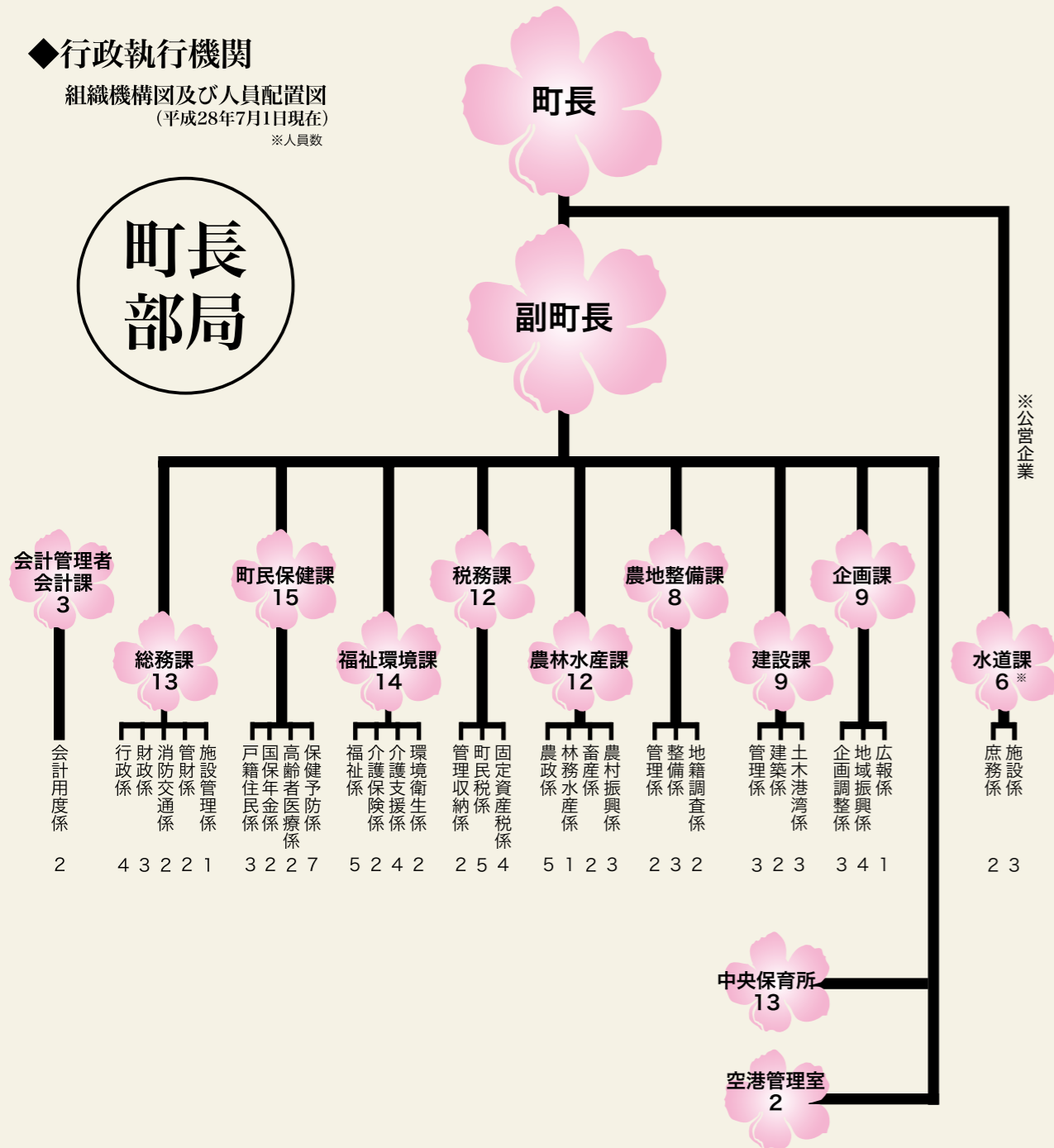
機構

その一

人口 土地状況

◆行政執行機関

組織機構図及び人員配置図
(平成28年7月1日現在)
※人員数



歴代町長 歴代教育長 歴代副議長 歴代収入役 歴代助役

◆歴代町村長

職名	氏名	就任年月日	退任年月日
初代町村長	石堂 新蔵	明治22年 4月 5日	明治29年11月30日
2代	石堂 直八	明治29年12月18日	明治33年12月17日
3代	石堂 新蔵	明治34年 1月 8日	明治41年12月20日
4代	牧瀬九十郎	明治42年 1月 8日	明治43年 8月11日
5代	日高 健助	明治43年 9月14日	明治44年12月 6日
6代	西田伝次郎	明治44年12月13日	大正 6年 7月19日
7代	竹島 良一	大正 6年 8月 9日	大正 8年 2月 5日
8代	遠藤 友也	大正 8年 2月26日	大正10年12月26日
9代	竹島 良一	大正11年 1月17日	大正13年 2月25日
10代	石堂 静蔵	大正13年 4月 5日	大正15年 3月26日
11代	鎌田 嘉蔵	大正15年 7月 7日	昭和 3年 8月22日
12代	西田 新八	昭和 3年 9月22日	昭和 6年 6月20日
13代	松下 齊	昭和 6年 7月21日	昭和13年 6月 4日
14代	石堂 静蔵	昭和13年 6月15日	昭和15年 9月30日
初代町長	鎌田 政義	昭和15年12月11日	昭和19年12月10日
2代	竹島 良一	昭和19年12月22日	昭和21年 1月24日
3代	古市亀太郎	昭和21年 5月26日	昭和26年 4月 4日
4代	川下 直木	昭和26年 5月10日	昭和30年 4月16日
5代	鎌田 義俊	昭和30年 5月 1日	昭和46年 4月29日
6代	田代 碩市	昭和46年 4月30日	昭和54年 4月29日
7代	松下 道男	昭和54年 4月30日	平成 3年 4月29日
8代	日高 實昭	平成 3年 4月30日	平成15年 2月21日
9代	川下 三業	平成15年 4月28日	平成27年 4月26日
10代	田淵川寿広	平成27年 4月27日	

◆歴代助役・副町長

氏名	就任年月日	退任年月日
岩坪 友哉	明治22年 5月27日	
鎌田 幸平	明治26年10月26日	
鎌田 正助	明治28年 8月27日	
石堂 直八	明治29年12月28日	
牧瀬九十郎	明治30年 4月 7日	
日高 藤八	明治42年 1月26日	
徳永 幸蔵	明治43年 9月30日	
竹島 良一	明治45年 4月 4日	
石堂 静蔵	大正 6年 8月25日	
西田 新八	大正 9年 2月 7日	
鎌田 嘉蔵	大正11年 3月25日	
向田 甚哉	大正15年 9月10日	昭和 3年 4月21日
田上 丸弥	昭和 3年 8月 3日	昭和 3年 9月22日
古市 国年	昭和 3年10月25日	昭和 6年 7月21日
園中 岩七	昭和 6年 8月31日	昭和10年 7月30日
牧瀬 勇蔵	昭和10年 7月31日	
黒木 次助		昭和15年 7月31日
鎌田 政義	昭和15年 9月30日	昭和15年12月10日
美園 鉄彦	昭和15年12月23日	昭和19年12月22日
石堂 嘉平	昭和20年 2月10日	昭和21年 5月27日
石堂 静也	昭和21年 7月15日	昭和26年 3月13日
日高 実盛	昭和26年 5月21日	昭和30年 5月20日
久木原峯俊	昭和30年 5月21日	昭和38年 5月19日
田代 碩市	昭和38年 5月20日	昭和46年 1月 8日
牧瀬平二郎	昭和46年 5月26日	昭和54年 5月25日
馬場 三夫	昭和55年 2月25日	昭和63年 2月24日
鎌田 政光	昭和63年 3月24日	平成 3年 4月29日
柳野 忠明	平成 3年 8月 5日	平成15年 7月10日
鷲見 耕造	平成15年 8月 1日	平成19年 7月10日
池田 弘	平成19年 8月 9日	平成23年 7月31日
松原孝三郎	平成23年12月 2日	

※空欄は不明。
平成19年4月1日助役を副町長と名称変更。

◆歴代収入役

氏名	就任年月日	退任年月日
羽生清十郎	明治38年 2月21日	明治42年 1月 7日
石堂孫之助	明治43年 7月18日	
梶原喜之助	大正 6年11月20日	昭和 3年 9月30日
日高 秋哉	昭和 2年 9月 4日	
美園 鉄彦	昭和 3年10月 1日	昭和15年 9月30日
園中 岩七	昭和 6年 7月31日	
馬場 盛永	昭和 5年12月23日	昭和30年 5月20日
浜山 祐雄	昭和30年 5月21日	昭和46年 5月19日
羽生 又雄	昭和46年 6月22日	昭和54年 6月21日
日高 茂	昭和54年 6月28日	昭和62年 6月27日
山口 次雄	昭和63年 3月24日	平成 3年 4月29日
有留 早志	平成 3年 8月 5日	平成15年 6月 2日

◆歴代教育長

職名	氏名	就任年月日	退任年月日
初代教育長	日高 新蔵	昭和27年11月 1日	昭和31年 9月30日
2代	古市 秀一	昭和31年10月 1日	昭和39年 9月30日
3代	原口 楠雄	昭和39年10月 1日	昭和47年 9月30日
4代	上妻 肇	昭和47年10月 1日	明治59年 9月30日
5代	浦邊 均	昭和59年10月31日	平成 4年10月30日
6代	唐鎌 哲男	平成 4年10月31日	平成 8年10月30日
7代	羽生 昌弘	平成 8年10月31日	平成19年 4月30日
8代	中脇 努	平成19年 5月30日	平成28年 4月15日
9代	北之園千春	平成28年 4月16日	

◆歴代議長

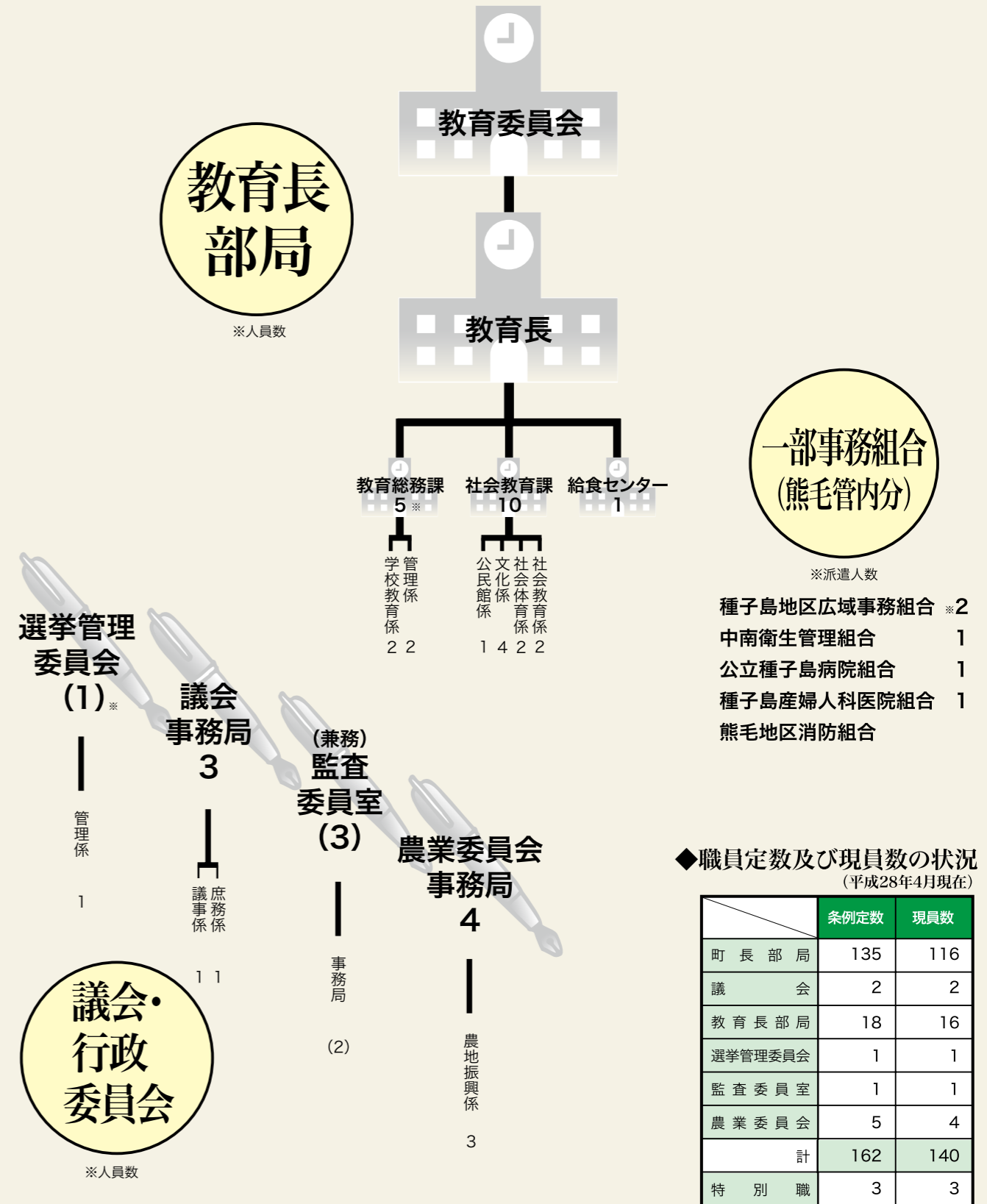
氏名	就任年月日	退任年月日
徳永 寅吉	昭和22年 5月	昭和26年 4月
岩坪 数馬	昭和26年 5月	昭和30年 4月
本鍋田 清	昭和30年 5月	昭和34年 4月
鎌田 静也	昭和34年 5月	昭和38年 4月
田代 直志	昭和38年 5月	昭和42年 4月
二階堂幸英	昭和42年 5月	昭和46年 4月
石堂 静也	昭和46年 5月	昭和47年 5月
長深田秀夫	昭和47年 5月	昭和48年 2月
中 豊	昭和48年 2月	昭和50年 4月
春田 静哉	昭和50年 5月	昭和54年 4月
日高 満	昭和54年 5月	昭和58年 4月
鎌田 政光	昭和58年 5月	昭和62年 4月
中村 篤治	昭和62年 5月	平成元年 4月
中村 篤治	平成元年 5月	平成 3年 4月
村尾 収	平成 3年 5月	平成 7年 4月
柳田 光宏	平成 7年 5月	平成 8年12月20日
村尾 収	平成 8年12月21日	平成11年 4月29日
有留 安夫	平成11年 4月30日	平成15年 4月29日
本鍋田真男	平成15年 5月 1日	平成19年 4月29日
寺田 富雄	平成19年 5月 1日	平成23年 4月29日
鎌田勇二郎	平成23年 5月 2日	

◆歴代副議長

氏名	就任年月日	退任年月日
川下 直木	昭和22年 5月	昭和26年 4月
田代 直志	昭和26年 5月	昭和30年 4月
馬場 森三	昭和30年 5月	昭和34年 4月
田代 碩市	昭和34年 5月	昭和38年 4月
鎌田 栄吉	昭和38年 5月	昭和42年 4月
池山 親志	昭和42年 5月	昭和46年 4月
長深田秀夫	昭和46年 5月	昭和47年 5月
秋田 安義	昭和47年 5月	昭和48年 2月
秋田 安義	昭和48年 2月	昭和50年 4月
倉内 清則	昭和50年 5月	昭和54年 4月
光 義雄	昭和54年 5月	昭和58年 4月
松下 敏秋	昭和58年 5月	昭和62年 4月
提 静哉	昭和62年 5月	平成元年 4月
村尾 収	平成元年 5月	平成 3年 4月
柳田 光宏	平成 3年 5月	平成 7年 4月
西田 勉	平成 7年 5月	平成 9年 4月
浜脇 時堆	平成 9年 5月	平成11年 4月29日
浦口 俊一	平成11年 4月30日	平成15年 4月29日
上妻 光義	平成15年 5月 1日	平成15年10月17日
徳永 昭久	平成15年11月28日	平成19年 4月29日
日高 健二	平成19年 5月 1日	平成23年 4月29日
松下 正治	平成23年 5月 2日	平成27年 4月29日
徳永 留夫	平成27年 5月 1日	

機構

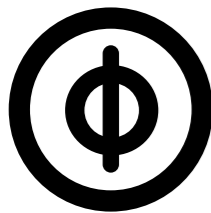
その二



◆職員定数及び現員数の状況 (平成28年4月現在)

	条例定数	現員数
町長部局	135	116
議会	2	2
教育長部局	18	16
選挙管理委員会	1	1
監査委員会	1	1
農業委員会	5	4
計	162	140
特別職	3	3

町のあゆみ



町章

円の中に中種子町の「中」の字を配し、外円は平和と円満を、中の文字は町民の団結を表現するもので、本町の伝統・理想を象徴しています。

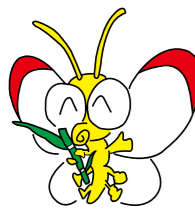
昭和42年3月制定



シンボルマーク

「明るい未来に種まく町」のキャッチフレーズをモチーフに、「中種子町」の頭文字(中)を町づくりに励む若者をイメージ「太陽の里」「みどりの里」をハートのグリーンで表現しました。

平成9年7月制定



キャラクターマーク「ベニーちゃん」

町の象徴の一つ「ツマベニチョウ」が、基幹作物である「サトウキビ」をつかんだ姿のキャラクターです。着ぐるみもあり、主に町の各種イベントに登場し、親しまれています。

平成4年3月制定



町花「ゲットウ」



町木「フヨウ」



町木「ウバメガシ」



町蝶「ツマベニチョウ」

昭和55年制定



ベニーちゃん(中央)と校区キャラクター



1999年に発足、本町のメンバー約20人で構成。現在、観光大使として島内外で活躍中!!

発行日/平成28年10月

編集・発行/鹿児島県中種子町役場 企画課 広報係

〒891-3692 鹿児島県熊毛郡中種子町野間5186番地

tel.0997-27-1111 fax.0997-27-3634

http://town.nakatane.kagoshima.jp/

印刷/有種子島新生社印刷

町民憲章

昭和54年12月制定

わたしたち中種子町民は、美しいふるさとの自然と、誇り高い伝統を愛し、みんなの力を合わせ、限りない郷土の発展を目指してここに町民憲章を定めます。

一、わたしたち中種子町民は祖先を敬い互いにいたわり合い心豊かな町をつくりまします

一、わたしたち中種子町民は生きがいを求め教養を高め文化の町をつくりまします

一、わたしたち中種子町民は勤労を重んじ生産に励み活気に満ちた町をつくりまします

一、わたしたち中種子町民は若い力を伸ばし健康で明るい町をつくりまします

一、わたしたち中種子町民はきまりを守り礼儀を正し住みよい町をつくりまします

中種子町々民歌

昭和36年 中種子町民歌制定委員会製作

一、樟の葉ずれのさわやかに

南の風の光る里

ここに楽土の夢をおい

むすぶ二万の玉の汗

ああ力あれ中種子町

二、ゆたかな土と人の和と

祖先のいのち住むところ

道ひろびろと野はひらけ

文化の翼とびかよう

ああ躍進の中種子町

三、あすを呼ぶ声村々を

流れる唄に山彦に

とがまも光れ土も湧け

いま建設の意気たかく

ああ意気たかく中種子町

明治13年	野間に戸長役場設置され、野間・油久・納官・増田を直轄す 坂井は島間戸長役場の直轄となる
14年	板井村、野間戸長役場の直轄となる
16年	戸長役場の廃置分合により、田島は油久より牧川は納官より分離して各1村を立つ 野間戸長役場の直轄は7ヶ村となる
17年 9月	行政改革により熊毛郡は西之表村・野間村・基永村となる
22年 4月	町村制実施 種子島は熊毛郡となり北種子村・中種子村・南種子村が誕生
25年10月	野間郵便局開局
30年 4月	熊毛・敷設郡の両郡合併して現今の熊毛郡となる
36年 3月	西之表～野間の県道(中線道)開通
38年	村医を置き、一般衛生並びに学校衛生に関する一切の事務に従事させる
大正14年	浜津脇に発電所設置 中種子村に初めて点灯
昭和13年 3月	水稻早期栽培始まる 中種子村に電話開通
15年11月	役場庁舎、現在地に移転
12月	町制施行(1日)
22年	6・3・3制教育制度、国民学校を小学校と改称義務教育9か年となる。星原・増田・野間・南界に新制中学校設立
23年 3月	中種子町青年学校廃止、新制中種子高等学校設立
25年 4月	中種子高等学校県立移管 町奨学金制度設立
27年 2月	広報紙「中種子新報」創刊
11月	中種子町教育委員会発足
29年 3月	忠霊塔除幕
6月	町ラジオ広報の業務開始
11月	国立衛生試験所種子島薬植物栽培試験場設立
12月	最初の町営空港完成
32年 2月	テレビジョン視聴始まる
11月	朝日開発株中種子工場落成
33年 2月	町営種子島空港松原山に完成
12月	種子島空港、第3種空港昇格
35年 4月	町立養老院開設(収容人員50名)
12月	上水道完成通水
37年	中央グラウンド完成(陸上競技場)
39年 8月	中央公園完成
11月	国民宿舎つまべに荘開館
40年 3月	ごみ処理場完成(処理能力1日5t)
41年 3月	町営火葬場落成 家畜市場落成
6月	新庁舎落成
10月	農林省さとうきび原々種農場開庁
43年 4月	精神薄弱児施設(あかつき学園)開設(収容人員40名)
44年	千草原営園圃場整備事業完成(258ha)
45年	長野先営園圃場整備事業完成(205ha)
12月	中央公民館落成
50年 3月	広域営農団地農道整備事業第1期工事完成(延長8,466m)
4月	県道西之表、南種子線国道となる(国道58号線)し尿処理場完成(処理能力1日30kℓ)
51年 4月	養護老人ホーム福寿園改築
52年 4月	町立体育館落成
53年	町立歴史民族資料館落成(12月1日開館)
55年 3月	上水道第四次拡張事業完成 中央地区営園圃場整備事業完成(444ha)
7月	町清掃センター落成
56年 3月	漁村センター完成 星原中学校体育館完成
12月	中田地区水道給水開始
57年 3月	老人福祉センター完成。岩岡小学校・南界中学校体育館完成
58年 2月	北部地区簡易水道給水開始
3月	コミュニティ防災センター完成 納官小学校体育館完成
	地籍調査事業始まる
59年	野間中学校体育館完成 郷土出身力士大関若島津大活躍
60年	中央運動公園工事着工
62年	中南広域葬苑完成
63年	熊毛地区消防組合業務開始
町営野球場完成	
平成元年	町制施行50周年記念事業
2年	陸上競技場完成
3年	全国離島交流ゲートボール大会開催
4年	温泉保養センター落成
5年	全天候型テニスコート完成
4月	本村、古市家住宅国の重要文化財に指定
5月	「福岡中種子つまべに会」発足
12月	種子島こりーな落成
7年 2月	種子島農業公社設立
7月	流水プール完成
8月	体育館・武道館建設着工
8年 4月	「空き缶等散乱防止」条例施行
9年 4月	町のシンボルマーク決定
7月	「近畿中種子会15周年」総会
8月	「立切遺跡」35,000年前の礫群と焼土跡、土坑が石器類と共に出土
9年 9月	6,300年前の噴礫層を確認(種子・屋久で15ヶ所本町でも池之向・広野・春田・輪之尾の4ヶ所)
12月	種子島砂漠緑化センターが坂井島ノ峯にオープン
10年 1月	種子島ゴミ処理広域協議会発足
3月	保健センター落成(4月1日オープン敷地面積3,125.0のべ床面積733.25)
4月	浜津脇熊野神社落成(25年ぶりの新築)
6月	「よいら〜いき音頭」作成
7月	フルーツ公園(ふれあいの里)オープン
8月	種子島中央体育館中央武道館オープン
8月	中種子の星空日本一に輝く
11月	「宮崎中種子会」発足
11年 3月	認定農業者協議会発足
4月	「つまべに留学」スタート(油久小学校)

5月	種子島中央家畜市場全面建替え
9月	第53回県民体育大会熊毛大会開催(柔道他6種目が町内で競技)
10月	「要介護認定」申請受け付けスタート
10月	「園田遺跡」約1万2000年前(縄文時代草創期)石やり9本出土
11月	中学校統合実施委員会発足
12年 2月	中学校統合実施委員会が平成16年4月統合を答申
3月	スペースファーム種子島が第5回全国環境保全型農業推進コンクールにおいて、鹿児島県代表として入賞
4月	つまべに留学第2期生歓迎式
4月	福寿園開設40周年記念式典
5月	熊野漁港関連施設竣工式(浮桟橋・公園)
5月	全国離島振興協議会通常総会(こりーな)
9月	種子島公立病院建設協議会発足
11月	増田校区活性化施設(ベニーハウス)区民センター落成式
3月	建築面積528.98
11月	町駅伝大会で岩岡校区が20回目の優勝
12月	双葉スポーツ少年団結成25周年記念大会
12月	さとうきび精製施設稼働
13年 3月	メクラヘビ(世界最小のヘビ)種子島薬用植物栽培試験場で発見
3月	野間地区公民館落成式
3月	瀬浦橋完成(熊野)
4月	第4次長期振興計画スタート
4月	基本テーマ:花咲く未来に人と自然が根づく町
4月	つまべに留学第3期生歓迎式
4月	公立種子島病院組合設立
9月	種子・屋久地方豪雨(県内観測史上最多162/時間)
11月	県下一周市郡対抗駅伝熊毛特別大会開催
12月	第29回鹿児島県スポーツ少年団競技別交歓大会
	柔道競技:双葉スポーツ少年団優勝
14年 4月	「中種子よいら〜いきスポーツクラブ」17競技でスタート
4月	完全学校週5日制開始
9月	統合中学校起工式
9月	中種子町自治公民館連絡協議会女性部設立
10月	種子島地区任意合併協議会発足
11月	熊野神社御鎮座550年祭
15年 3月	故 日高實昭町長 町葬儀 於中央体育館
4月	中南衛生管理組合 汚泥再生処理センター完成
5月	新種子島空港バイパス開通 トンネル延長 335メートル
6月	町指定金融機関JA役場派出所業務開始 ATM設置
8月	クリーンエネルギー風力発電所陸上競技場に完成
8月	中種子中学校校舎棟完成
10月	第19回県民レクリエーション祭開催
	種子島地区任意合併協議会解散
12月	野間中柔道部、第一回サニックス旗福岡国際中学生柔道大会出場
16年 1月	種子島空港ターミナルビル棟発足
2月	種子島二町任意合併協議会発足
3月	町内四中学校(星原・増田・野間・南界)閉校
4月	中種子中学校開校10学級生徒数313名 スクールバス運行開始
7月	種子島二町合併協議会設立
17年 2月	種子島二町合併協議会解散
11月	シルバー人材センター設立
18年 3月	旧種子島空港(伏之前)閉港 新種子島空港(砂中)開港
4月	あかつき学園、福寿園を民営化 全日本級別サーフィン選手権大会開催
7月	さつま町と友好協定を締結
10月	種子島農業支援センター(TASC)始動
11月	「きりしま中種子会」発足
19年 1月	大津保畑遺跡で狩猟用として日本最古の落とし穴発見
7月	種子島観光協会設立
12月	浜津脇簡易水道拡張事業完了 坂元、竹之川地区通水開始
20年 1月	1市2町による公立産婦人科医院開設
4月	種子島中央高等学校開校
8月	中央分団、県消防操法大会初優勝 全国大会出場(10月開催)
11月	中種子高等学校60周年記念式典
21年 8月	野間小学校校舎改築事業完成
10月	全国女性消防操法大会に星原女性消防隊出場(優秀賞)
22年 1月	町立体育館改修完成
3月	中種子高等学校閉校
4月	コミュニティバス運行スタート
6月	種子島空港初の海外チャーター便就航(種子島⇄台北)
11月	中種子町町制施行70周年記念式典
23年 4月	第5次長期振興計画スタート 基本テーマ:人と和と豊かな実りに新たな希望が持てるまち なかたね
11月	「なかつね児童クラブ」スタート
24年 3月	広域事務組合最終処分場完成
5月	町営相撲場完成
8月	さつま町と災害時相互応援協定を締結
8月	中央分団 県消防操法大会(ポンプ車の部)優勝 全国大会出場9位(10月)
25年 11月	中種子中学校創立10周年記念式典
26年 4月	防災行政無線デジタル化事業スタート
9月	中種子火鑑統保存会が結成
27年 10月	種子島阿蘇川のマングローブ林が国指定天然記念物に指定
10月	第30回国民文化祭が開催(10/31~11/15)
11月	増田小学校が第2回全国小学校ラジオ体操コンクールで金賞
28年 5月	種子島産婦人科医院が完成
7月	自然レクリエーション村観光交流拠点施設が完成
8月	中央分団 県消防操法大会(ポンプ車の部)優勝
	熊野分団 県消防操法大会(小型ポンプの部)優勝



N A K A T A N E